



官設共済組合制度ノ概要及批評

桑田，熊藏

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 12(2):189-219

(Issue Date)

1912-02

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051824>



商業學
經濟學

國民經濟雜誌

第十二卷

第二號

(明治四十五年
二月一日發行)

論

說

官設共濟組合制度ノ概要及批評

法學博士

桑

田

熊

藏

緒言

余ガ茲ニ官設救濟組合トシテ説明ヲ試ミントスルハ左ノ四種ノ救濟組合ナリ

鐵道院救濟組合

明治四〇年勅令一二七號

專賣局共濟組合

明治四一年勅令一五七號

印刷局共濟組合

明治四二年勅令二二二號

郵便貯金局及通信官署共濟組合

明治四二年勅令一五一號

余ガ此四種ノ組合ヲ以テ研究ノ題目トナセシ所以ハ他ナシ我國公私ノ事業ニ

行ハル、所ノ共濟組合ハ其數少ナシトセザルモ其組織ノ整正ナルコト其基礎ノ鞏固ナルコト此四種組合ノ右ニ出ルモノナシ殊ニ保險ノ主義トシテ所謂強制加入主義ヲ採用セルハ我國勞働保險ノ歴史ニ於テ空前ノ事實タリ是等ノ理由ニ依リテ余ハ先ツ研究ノ資料トシテ此四種ヲ擇ビタリ

第一章

總論

保險ノ組織 此四種ノ組合ハ勞働保險ノ組織ノ系統上之ヲ單獨保險ノ中ニ加フルヲ正當トナス即チ雇者ノ地位ニ立テル所ノ政府ノ官署ハ保險ノ經營者タリ其官署ニ對シ被雇者ノ地位ニ立テル所ノ現業員非現業員ハ被保險人タリ從テ事務ノ執行危險ノ保障等凡テ保險ノ經營ニ必要ナル事項ハ其官署ノ責任ニ歸セリ恰モ民業タル工場ニ於テ工場主ガ單ニ其傭使セル勞働者ノ爲メニ保險事業ヲ經營セルト其趣ヲ一ニセリ或ハ之ヲ以テ相互保險ト認ムル者アランモ相互保險ノ組織ハ事務ノ經營ハ組合ノ自治ニ委シ殊ニ危險ノ保障ハ唯組合ノ資産ヲ以テ之ニ當テ外部ノ保護ナキヲ例トセリ此點ヨリ云ヘバ此四種ノ組合ハ相互保險ノ性質ヲ缺ケルモノト云ハザルヲ得ズ去レバ余ハ之ヲ以テ單獨保險ノ中ニ屬セシメ

ント欲ス(拙著工場法ト勞働保險參照)

保險ノ種類 保險ノ種類ニ就テハ四種ノ組合ニ於テ大同小異ナリ茲ニ之ヲ列舉セムニ

(1) 災厄ニ對スル保險ハ各組合トモ之ヲ經營セリ唯救濟ノ方法等ニ於テ多少ノ差異アルノミ

(2) 死亡ニ對スル保險モ亦各組合トモ之ヲ經營セリ其救濟ノ方法ニ於テハ其趣一ナラズ之ヲ概言スレバ死亡給與金ヲ主トシ加フルニ脫退給與金ヲ以テシ或ハ尙ホ勤續給與金ヲ加フルアリ

(3) 老衰ニ對スル保險ハ唯鐵道組合ニ於テ之ヲ見ルノミ即チ年齡五十五歳ヲ以テ老衰ノ時期トナシ此以後ハ保險料ノ拂込ヲナスヲ要セズ又救濟金ニ就テハ此時期ヲ以テ計算ノ標準ヲ立テ此時期ニ經過スルトキハ一定ノ救濟金ニ金利ヲ加算スルコト、ナシ其元金ヲ増加スルコトナシ他ノ組合ニ於テハ特ニ老衰ニ對スル保險ノ施設ナシ唯次ニ述ブル所ノ解雇ニ對スル給與金ノ方法ニ依リ保險料ヲ拂込タル年數ノ多少ニ應ジ給與金ノ増減ヲナセルノミ

(4) 解雇ニ對スル給與 組合員ガ自己ノ意思又ハ傭主ノ意思ニ依リ雇傭關係ヲ解除シ組合ヲ脱退セル場合ニ其勤續年數ニ應ジ定額ノ給與ヲナスモノニシテ是レ各組合ニ共通ノ事實タリ之ガ救濟ノ方法タル脱退給與金ヲ主トシ場合ニ依リ勤續給與金ヲ加フルヲ通例トス此救濟タル解雇ニ對スル保險ニシテ失業保險ノ性質ヲ有セルモノ、如キモ若シ夫レ單ニ脱退金ニ就キ觀察スルトキハ保險料ノ拂戻ニ外ナラズ夫ノ普通保險又ハ勞働保險ニ於テ元資保存ノ條件ニ依リテ保險契約ヲ結ブコトアリ是レ生命保險養老保險等ニ於テ屢々見ル所ナリ試ニ各組合ノ規則ニ就キ此給與金ノ算出ニ關スル計算ヲ見ルニ其金額ハ保險料拂込ノ年數ニ依リテ等差アルモ何レモ拂込タル保險料ニ一定利子ヲ附シ之ガ合計ヲ以テ限度トナシ此以內ニ若干ノ割引ヲナシ其金額ヲ定メタリ或ハ組合ニ依リテハ之ヲ脱退給與金ト云ハズシテ單ニ掛金拂戻ト云フモノアリ例ヘバ印刷局組合ノ如シ是等ノ事實ニ依リテ考フルトキハ脱退給與金ナルモノハ決シテ保險ノ計算ニ基ケルモノニ非ラズ從テ解雇ニ對スル保險ノ性質ヲ有セザルナリ寧ロ之ヲ以テ保險料ノ拂戻ト目スルハ至當ノ事タリ然レドモ鐵道以外ノ三種ノ組合ニ於テハ解

雇ノ際ニ脱退給與金ノ外勤續給與金ヲ與フル場合アリ勤續給與金ナルモノハ勤續年限ノ多少ニ應ジテ解雇ノ際ニ定額ノ給與ヲナスモノタリ殊ニ印刷局組合ニ於テハ一年以上ノ勤續者ニ對シテハ勤續給與金中ニ脱退給與金ヲ包含セシメ他ノ組合ニ比スレバ稍々多額ノ給與ヲナセリ由是觀之レバ解雇ノ際ニ唯脱退給與金ノミヲ與フルモノニ就テ云ヘバ解雇ニ對スル救濟ハ一種ノ保險料拂戻ニ過ギズ從テ全ク保險ノ性質ヲ缺キタルモ脱退給與金ニ加フルニ勤續給與金ヲ以テセラル場合ニ就キテ云ヘバ此種ノ救濟ハ幾分カ保險ノ性質ヲ有シ失業保險ノ先驅ヲナセルモノト云ハザルヲ得ズ

共濟組合ノ事業トシテ普通行ハル、モノハ此四種トス此他組合ニ依テ特殊ノ救濟ヲナセルモノアルモ之ヲ後章ニ譲リ茲ニ論及セズ

保險ノ主義 共濟組合ハ保險ノ主義トシテ強制主義ヲ採用セリ即チ保險設備ハ官業トシ而シテ傭使セル者ニ對シ強制加入ノ義務ヲ負ハシムルヲ以テ通則トセリ但組合員ハ現業員ト非現業員トノ二種ニ分チ強制加入ノ主義ハ現業員ニノミ適用シ非現業員ニ對シテ任意加入ノ方針ニ依レリ顧フニ組合設立ノ目的ハ主

トシテ現業員ノ救済ニ在ルヲ以テ之ニ向テ強制加入ヲ實行スルノ必要アリ非現業員ノ如キハ當人ノ意思ニ依リテ組合ノ恩惠ニ浴セシムルコト、セリ

被保人 組合員ハ現業員ヲ主トシテ之ニ對シテハ先ニ述べタル如ク加入ヲ強制シ而シテ非現業員ニ對シテハ鐵道組合專賣組合ニ於テハ任意加入ヲ許セリ郵便貯金及通信官署組合ニ於テハ豫メ此規定ヲ設ケタルモ未ダ之ヲ實行セズ印刷局組合ニハ此規定ヲ缺ケリ

組合員タルニハ組合ニ依リ一定ノ就業期間ヲ經過スルヲ要スルモノト就業ノ當時直チニ加入セシムルモノトノ區別アリ印刷局組合ニテハ六箇月ヲ以テ此期限トシ鐵道組合ニテハ就業當時ヨリ組合員タラシムルモ六箇月間ハ保險料ヲ支拂フヲ要セズト定メタリ郵便貯金及通信官署組合ニテハ就業ノ當時ヨリ組合員タルモノトシ專賣局組合ニテハ職工ニ對シテ十日ノ期限ヲ付シ其他ハ即時組合員タルモノトセリ

保險料ノ負擔 保險料ノ負擔ハ主トシテ組合員ニ歸シ政府ハ之ニ向テ定規ノ補助ヲ與フルモノトス組合員ノ支拂フ所ノ保險料ハ各自ノ受クル所ノ賃銀額ニ

應ジテ一定ノ割合ニ依リ之ヲ納ムルモノトス政府ノ補助金モ亦同一ノ方法ニ依リ之ヲ支出セリ

保險料モ補助金モ保險ノ種類ニ依リ之ヲ分割シ特別ノ計算ヲナスコトナク各種ノ保險ニ共通ノモノトセリ換言スレバ災厄保險ト云ヒ老衰保險ト云ヒ其他各種ノ救済ニ就キ特別ノ保險料及補助金ヲ定ムルニ非ラズ凡テ是等ノ救済ヲ總括シテ保險料及補助金ノ額ヲ定ムルナリ然レドモ計算ノ基礎ニ就テ考フルトキハ規則制定ノ當初ニ於テ各種ノ保險救済ニ就テ特別ノ計算ヲ立テタリ例ヘバ鐵道組合ニ於テ政府補助金ノ額ハ組合員賃銀ノ月額百分ノ二ト定メテ半額即チ百分ノ一ヲ以テ災厄救済ノ財源トナシ其半額ヲ以テ他種ノ救済資金ノ補充トナセルガ如シ此事タル唯計算ノ基礎ヲナセルニ過ギズ組合ガ事實上救済ヲナスニ當リテハ強チ此特別ノ計算ニ拘束セラレ、コトナク共同ノ計算ヲ以テ彼是ノ融通ヲナスコトヲ得ルナリ

組合員ノ支拂フ所ノ保險料ノ額ハ賃銀ノ高低ニ應ジテ定ムルコト先キニ述ベタル所ノ如シ而シテ保險料ト賃銀トノ比例ヲ定ムルニ當リテ均一定率即チ賃銀

ノ高低奈何ンヲ顧ミズシテ同一ノ比例ヲ以テスル方法アリ又等級定率即チ賃銀ノ高低ニ應ジテ之ヲ若干ノ等級ニ分チ各等級毎ニ此比例ノ異ナル方法アリ專賣局組合ガ等級定率ノ方法ヲ採レル外他ノ三種ノ組合ハ均一定率ノ方法ニ依レリ。余ハ茲ニ各組合ニ於ケル保險料及補助金ノ算出方法ヲ列舉セム

給料月額ニ對シ

保險料	鐵道組合	百分ノ三・〇	補助金	鐵	百分ノ二・〇
	印刷局組合	百分ノ三・〇		郵	百分ノ二・〇
專賣局組合	郵便貯金及 通信官署組合	百分ノ三・六	專	印	百分ノ二・四
		百分ノ一・〇乃至 百分ノ二・五 (均百分ノ一・九ニ當ル)		專	百分ノ一・三

右掲グル所ノ保險料補助金ヲ合算シテ賃銀ニ對スル比例ヲ見ルニ

鐵 百分ノ五・〇
郵 百分ノ六・〇

印 百分ノ五・〇
專 約百分ノ三・二

由是觀之レバ鐵道組合印刷局組合ニ於テハ百分ノ五ノ金額ニ依テ各種ノ救濟ヲナセルニ拘ラズ通信官署組合ハ百分ノ六ノ多キニ上リ專賣局ハ約百分ノ三・二ノ少額ヲ以テ救濟ヲナセリ此事タル組合ニ依リ其經營セル保險救濟ノ種類ヲ異ニシ災厄ノ率モ業務ノ異同ニ依リ同一ナラズ又組合員ハ何等ノ利益ヲモ受クル

ニ及バズシテ保險料ハ組合ニ沒收セラル、場合等種々ノ原因ニ依テ起ルモノナレバ一概ニ論ジ得ベキニ非ルモ此事實タル注意スベキ價值アルコト、云ハザルヲ得ズ

救濟ノ方法 救濟ノ方法ハ凡テ賃銀ヲ以テ標準トナシ賃銀ノ多少ニ依テ等差ヲ設ケタリ、是レ賃銀ノ多少ニ依リ保險料ニ等差アル當然ノ結果ニ外ナラズ且又勤續年限ノ長短ニ依テ救濟金額ニ等差ヲ設ケタリ是レ亦勤續年限ノ長短ハ即チ拂込タル保險料ノ多少ヲ定ムルノ原因タルニ依ルナリ但シ災厄ノ救濟產婦ノ救濟罹災ノ救濟ハ此例ニ依ラズ勤續年限ノ多少ニ拘ラズ一定ノ標準ニ依リ之ヲ給與セリ

救濟金ノ給與ニ就キ一時金制ト年金制トノ利害ハ歐洲勞働保險ニ於テ主要ナル問題ニ屬セルモノナルガ我國共濟組合ニ於テハ砲兵工廠ニ行ハル、モノハ特定ノ場合ニ於テ年金制ヲ採用セル外凡テ一時金制ニ依レリ茲ニ述ブル所ノ官設共濟組合ニ於テモ亦一般ノ慣例ニ基キ凡テ一時金制ヲ採用シタリ此事ニ就テハ余ハ更ニ之ヲ批評スルコトアルベシ茲ニハ唯此事實ヲ掲グルニ止メン

第二章 災厄ニ對スル救濟

我國災厄救濟ニ關スル現行法ハ民法及ビ工場法ノ規定ノ外官業勞働者ニ對シテ官設人夫扶助令(明治四〇年勅令第一八六號)アリ各廠技術工藝者ノ死傷手當內規(明治十二年太政官達第四號)アリ特ニ海軍職工ニ對シテハ海軍定期職工條例(明治二九年勅令第二一號)アリ陸軍職工ニ對シテハ砲兵工廠職工扶助令(明治三五年勅令第一九一號)アリ是等ノ法律ノ主眼トセル所ハ災厄ノ救濟ハ政府ノ義務タルコトヲ認メ從テ政府ノ費用ヲ以テ相當ノ救濟ヲナスニ在リ保險ノ方法ニ依テ救濟ヲナスノ端緒ハ此四種ノ組合ニ依テ始メテ開カレタリ

元來業務上ノ災厄ハ傭主ノ責任ニ歸スベキコトハ文明各國ノ立法其揆ヲ一ニシ我國工場法ハ此原則ヲ採用セリ然ルニ官業勞働者ニ對シテハ已ニ久シキ以前ヨリ此原則實行セラレ右述ブル所ノ法令ノ制定アリタルハ以テ誇トナスニ足ルモノナラン今ヤ此四種ノ組合ニ於テハ更ニ一步ヲ進メテ保險ノ方法ニ依テ救濟ノ效ヲ全カラシメントスルハ社會的立法進步ノ徵候ト目スベキナリ

災厄ノ分類 災厄ヲ分類シテ五種トナセルコトハ各組合何レモ同一ナリ此分

類ノ標準ハ災厄ノ結果ニ在リ而シテ大體ニ於テ死傷手當内規ノ規定ニ基キタルモノトス

一等 重傷死ニ至リタル者

二等 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身自用ヲ辨スル能ハザル者及之ニ準スル者

三等 一肢ノ用ヲ失ヒ自用ヲ辨ジ得ルト雖モ終身業務ヲ營ムコト能ハザル者及之ニ準スル者

四等 自用ヲ辨ジ業務ヲ營ミ得ルト雖モ身體毀損シ舊ニ復スルヲ得ズ退職シタル者

五等 身體ヲ毀損シ舊ニ復スルヲ得ズト雖モ引續キ其職務ニ服スル者

是等ノ災厄ニ關シ救済ヲ與フルノ條件トシテ業務上ノ傷痕ナルコト必要ナリ業務ニ關係ヲ有セザル傷痕ハ此中ニ包含セザルモノトス

業務上ノ傷痕ニ就テ郵便貯金局通信官署組合ハ被害者ノ自己ノ重大ナル過失ニ因ラザルコトヲ以テ救済ノ條件ニ加ヘタルモ其他ノ組合ニ於テ此制限ヲ設ケ

ズ凡テ救濟ヲ與フルナリ

災厄ノ結果ハ雷ニ傷痕トナリテ現ハル、ノミナラズ更ニ疾病トナリテ現ハル
ルコトアリ去レバ災厄救濟ノ效果完キヲ期センニハ所謂業務上ノ傷痕ト業務上
ノ疾病トヲ併セテ救濟スルノ必要アリ然ルニ歐洲ノ災厄保險制ニ於テ業務上ノ
傷痕ニ對シテノミ救濟ヲ與ヘ業務上ノ疾病ニ對スル救濟ハ之ヲ疾病保險或ハ老
廢保險ニ讓ルヲ例トセリ獨逸勞働保險ノ如キ此方法ニ依レリ是レ他ナシ業務上
ノ傷痕ハ其事實ノ原因ニ就キ容易ニ明確ナル決定ヲ與フルコトヲ得ルモ業務上
ノ疾病ニ就テハ業務ニ關係ナキ病疾トノ畛域ヲ設クルコト難シ從テ雙方ノ間爭
議ヲ起シ易キニ依ルナリ然ルニ此四種ノ組合ニ就キ鐵道組合印刷局組合ハ業務
上ノ傷痕ニ限リタルモ郵便貯金及通信官署組合專賣局組合ハ業務上ノ傷痕モ疾
病モ俱ニ之ヲ救濟ノ事由トセリ此規定カ果シテ公平ニ實行セラル、ヤ否ヤ暫ク
他日ノ題トセン

保險料ノ負擔 災厄救濟ノ責任ハ傭主ニ歸スベク官業ノ場合ニ於テハ政府ノ
責任タルベキコトハ先キニ述べタル所ノ如シ官設共濟組合ニ於テ災厄ノ救濟モ

他ノ救濟ト俱ニ組合員ノ保險料ト政府ノ補助金トヲ以テ其財源トナスヲ以テ災厄救濟ノ性質ハ稍々明瞭ヲ缺クニ至リタルノ嫌ナキニ非ルモ四種ノ組合トモ政府補助金ノ主タル理由トスル所ハ災厄救濟ノ費用ヲ支出スルニ在リ即チ從來官設人夫扶助令及死傷手當内規ニ依リ政府ノ負擔スベキ金額ヲ以テ補助金ノ最低限度トシテ之ニ若干ノ附加ヲナシタルモノトス例ヘバ鐵道組合ガ從來ノ實驗ニ照ラシ補助金ノ半額ヲ災厄ノ救濟ニ充テ他ノ半額ヲ以テ其他ノ救濟ニ充テタルガ如キ以テ此理由ヲ徵スルニ足ルベシ他ノ組合ニ於テモ政府ノ補助金ハ百分ノ一以上タリ何レモ其災厄ノ率ハ鐵道ノ下ニ在ルノ事實ニ徵スルトキハ政府ノ補助金ハ少クモ災厄救濟ノ財源トナシタルノ事實ハ爭フ可ラザルコトタリ

救濟ノ方法 救濟ノ方法ハ必要ナル療養ヲナシ或ハ療養金ヲ與フル外定額ノ救濟金ヲ與フルナリ此ノ救濟金ノ額ハ賃銀ヲ標準トシ而シテ災厄ノ等級ニ應ジテ區別ヲナセリ是等ノ事ハ各組合ノ規定其趣ヲ一ニセリ然レドモ災厄救濟ノ金額ヲ定ムルニ就キ之ヲ畫一ニ定ムルト最低額ト最高額トヲ設ケ其範圍内ニ於テ適宜之ヲ定ムルトノ二方法アリ一等傷ニ就テハ各組合トモ均シク第一ノ方法ヲ

探レルモ二等傷以下ニ就テハ專賣局組合ハ第一ノ方法ヲ探レルモ鐵道組合郵便貯金及郵便貯金局及通信官署組合ハ第二ノ方法ヲ探レリ蓋シ一等傷ニ在テハ事實ハ一定シ程度ニ輕重ナキモ二等傷以下ニ在テハ同一ノ等級ニ在ル災厄ト雖モ其程度ニ輕重ノ別アリ一概ニ之ヲ論ズ可カラザルモノアルニ依ルナリ

茲ニ各組合ニ就キ救濟金額ニ關スル規定ヲ舉ゲム

	專賣局組合	印刷局組合	鐵道組合	郵便貯金局及通信官署組合
一等傷	給料二年六箇月分	同上	同上	同上
二等傷	給料二年六箇月分	同上	同上	同上
三等傷	給料一年六箇月分	同上	同上	同上
四等傷	給料一年分	同上	同上	同上
五等傷	給料六箇月分	同上	同上	同上

余ハ茲ニ死傷手當内規ニ依ル救濟金額ヲ掲ゲテ對照ノ資ニ供セム	一等傷	九〇圓以下(外ニ埋葬料二五圓以下)	二等傷	九〇圓以下(外ニ療養料實費)
	三等傷	六五圓以下(外ニ療養料實費)	四等傷	四〇圓以下(同上)
	五等傷	療養料實費		

第三章

死亡老衰其他ノ救濟

官設共濟組合ノ經營セル救濟ハ災厄ノ外死亡保險アリ老衰保險アリ解雇ニ對スル救濟アリ是等救濟ノ性質ニ就テハ第一章ニ述ベタル所ノ如シ

保險料ノ負擔 保險料ノ負擔ハ組合員ニ歸シ政府ハ相當ノ補助金ヲ附與セリ是レ亦先ニ述ベタル所ナリ唯茲ニ注意スベキハ形式ハ別問題トシ實質ニ於テ災厄ノ救濟ニ要スル費用ハ全部政府補助金ヨリ支出スルヲ以テ通則トセルガ故ニ此保險ニ就テハ組合員ノ支拂フ所ノ保險料ヲ使用スルヲ要セズ然レドモ死亡老衰其他ノ救濟ニ就テハ其財源ハ主トシテ保險料ヲ仰ギ尙ホ政府補助金中ヨリ災厄ノ救濟ニ充テタル殘額ヲ加ヘ茲ニ述ブル所ノ救濟ヲ與フルモノト知ルベシ

救濟ノ方法、此方法ニ就キ之ヲ概言スレバ四種ノ組合中鐵道組合ハ一種ノ特徵ヲ有シ他ノ三種ノ組合ハ大同小異ナリ鐵道組合ノ特徵トスル所ハ各種ノ救濟ニ就キ五十五歳ナル年齡ヲ以テ一期節ヲナシ此年齡ノ前後ニ依リテ救濟ノ程度ヲ異ニセリ即チ五十五歳以前ニ給與スル救濟金ハ此年齡以後ニ給與スル救濟金ニ比シ其額少キヲ例トセリ抑モ鐵道院組合ニ於テハ五十五歳ヲ以テ老衰ノ時期ト認メ老衰ノ救濟ヲナスト同時ニ五十歳以上ノ者ハ保險料ヲ支拂フノ義務ヲ免

除セルヲ以テ從テ救濟金ノ算出ニ就キ右述ブル所ノ區別ヲ生ジタルナリ是レ他ノ三種ノ組合ニ於テ見ザル所ナリ他ノ三種ノ組合ニテハ保險料免除ノ年齢ヲ定ムルコトナク就職ノ繼續セル間ハ之ヲ支拂ハザルヲ得ズ去レバ救濟金ノ算定ニ就テ是ノ如キ年齢ノ區畫ヲ立ルコト能ハズ一生ヲ通ジテ勤續ノ長短ニ應ジテ等差ヲ設クルコト、ナセリ余ハ是ヨリ各種ノ救濟ニ就キ序ヲ逐フテ之ヲ述ベシ。

死亡ニ對スル救濟 鐵道組合ニ於テハ死亡ノ時期ニ就キ五十五歲前後ノ區別ヲ設ケ五十五歲前ニ死亡シタル者ニ對シテハ規則二號表ニ依ル救濟金ヲ給與シ併セテ拂込タル保險料ノ總額八割ヲ拂戻スモノトス五十五歲ニ死亡シタル者ニ對シテハ規則三號表ニ依リ救濟金ヲ給與ス五十五歲以後若干ノ期間經過後死亡セル者ニ對シテハ此救濟金ニ一定ノ利子ヲ付スルモノトス是等ノ場合ニハ唯救濟金ヲ與フルノミニテ保險料ノ拂戻ヲナスコトナシト雖モ其救濟金額ハ五十五歲以前ニ死亡セル場合ニ比シ稍々多額ニ上ルヲ以テ其救濟金中ニハ事實上保險料拂戻ノ金額ヲ包含セルモノト知ルベシ

他ノ三種ノ組合ニ於テハ勤續年限ノ長短ニ應ジテ二級(印若シクハ三級專郵)ノ

等級ヲ設ケ救濟ノ程度ヲ異ニセリ其要旨左表ノ如シ

專賣局組合	六箇月未滿	脫退給與金	死亡給與金	
	五箇月乃至五年以上	脫退給與金	死亡給與金	年功給與金
(本表ハ現業員ニ關スル規定トス)				
郵便貯金及 通信官署組合	六箇月未滿	脫退給與金	死亡給與金	
	三箇月乃至三年以上	脫退給與金	死亡給與金	勤續給與金
印刷局組合	一年未滿	掛金拂戻	死亡給與金	勤續給與金
	一年以上		死亡給與金	

此三種ノ組合ト鐵道組合トヲ比較スルトキハ茲ニ趣味アル事實ヲ認ムルコトヲ得ベシ即チ此三種ノ組合ニテハ死亡ノ救濟ニ就キ一定ノ年限以上勤續セル者ニハ脫退給與金死亡給與金ノ外更ニ勤續給與金ヲ加フルモ鐵道組合ニハ此事ナキコト是レナリ此制度ノ當否ハ後章之ヲ批評セン

老衰ニ對スル救濟 余ハ各共濟組合ノ規則ヲ通讀スルトキハ老衰ニ對スル保險ハ獨リ鐵道組合ニ於テ之ヲ見ルノミト斷言スルヲ憚ラズ先キニ述べタル所ノ如ク鐵道組合ニ於テハ年齡五十五歲前後ニ依リ死亡ノ救濟ニ等差ヲ設ケタルノ

ミナラズ保險料ノ拂戻ハ此年齡以前ニ限り此以後ニ及ボサズ之ニ加フルニ五十歲以後ハ保險料ヲ免除シタル等ノ事實ニ徴スルトキハ老衰ニ對スル保險ノ性質ハ明瞭ナリトス他ノ三種ノ組合ニ於テハ是等ノ事實ナク唯勤續給與金ノ方法ニ依リ年齡ノ進ムニ從テ給與金ノ増加スルコトアルモ一定ノ老衰ノ時期アリ其前後ニ依リテ計算ヲ異ニスルコトナシ從テ之ヲ以テ特ニ老衰ニ對スル保險ト認ムルヲ得ズ

鐵道組合ノ老衰保險ニ就キ救濟金ノ給與條件ハ唯其年齡ニ達シタルノミヲ以テ足レリトセズ此年齡以後ニ組合ヲ脫退スル場合ニ限ルモノトス即チ五十五歲トナリ直チニ脫退スルトキハ規則三號表ニ依リ死亡救濟金ト同一ノ割合ヲ以テ救濟金ノ給與ヲ受クルナリ若シ此年齡以後尙ホ勤續スルトキハ此救濟金ハ一種ノ預金ノ性質ヲ帶ビ利子ヲ付シテ組合ニ保管セラレ而シテ脫退ノ時期ニ於テ元利ノ給與ヲ受クルナリ去レバ年齡五十五歲以上ナルモ組合ヲ脫退セザル限りハ救濟金ノ給與ヲ受クル能ハザルナリ各國ノ勞働保險法ニ於テ老衰保險ノ規定ヲ按ズルニ救濟金ハ一時金ナルト年金ナルトニ關ラズ一定ノ年齡ニ到達セルトキ

ハ必ラズ之ヲ給與シ雇傭關係ノ繼續セルト否トハ措テ之ヲ問ハザルナリ顧フニ勞働者ガ一定ノ年齡ニ達スルトキハ縱令ヒ雇傭關係ハ繼續スルモ其勞働能力ハ著シク減少シ從テ其收入モ減少スルヲ以テ之ニ給スルニ老衰救濟金ヲ以テシ由テ以テ其生計ノ補充ヲナスノ必要アリ我鐵道組合ニ於テ此通義ニ戻リテ特別ノ制度ヲ設ケタルハ奈何ナル理由ニ依ルカ

解雇ニ對スル救濟 解雇ニ對スル救濟ニ就テハ解雇ノ原因ガ自己ノ意思ニ基ケルヤ否ヤニ依テ其取扱ヲ異ニスル方法アリ或ハ其原因ノ何タルヤヲ問ハズ凡テ同一ノ救濟ヲナスノ方法アリ印刷局組合郵便貯金及通信官署組合ハ前者ノ方法ニ依リ鐵道組合專賣局組合ハ後者ノ方法ニ依レリ

鐵道組合ニ於テハ五十五歲以後ノ解雇ニ就テハ先ニ述べタル所ノ老衰救濟金ノ給與ヲ與ヘ而シテ五十五歲以前ノ解雇ノ場合ニ就テハ規則四號表(非現業員ハ五號表)ニ依リ唯脱退給與金ヲ受クルモノトス今四號表ニ依ル給與金額ト已ニ納付セル保險料トノ割合ヲ按ズルニ第二號表ニ於ケル五十五歲以前死亡ノ場合ニ於テ拂戻サアル金額ノ八割以下ニ在リ

專賣局組合ニ於テ解雇ニ對スル救済ハ左ノ如シ

一年未滿 不給

一年乃至二年 脱退給與金 $\frac{2}{5}$

二年乃至五年 同上 $\frac{4}{5}$

五年以上 同上 全額及年功給與金

右ハ現業員ニ對スルモノナリ非現業員ニ就テハ茲ニ之ヲ略セン
郵便貯金及通信官署組合ニ於テハ左表ノ如シ

六箇月未滿 不給

六箇月乃至一年 脱退給與金 $\frac{8}{10}$

自己ノ意思ニ依ル場合 一年乃至二年 同上 $\frac{9}{10}$

二年乃至三年 同上 全額

三年以上 同上 全額 勤續給與金

自己ノ意思ニ依ラサル場合 三年以下 脱退給與金 全額

三年以上 同上 全額 勤續給與金

印刷局組合ニ就テハ左表ノ如シ

一年未滿 掛金拂戻

自己ノ意思ニ依ル場合 一年乃至五年 第四號勤續給與金

五年以上 第五號勤續給與金

自己ノ意思ニ依ラサル場合
一 年 未 滿
一 年 以 上

掛金拂戻
第三號勤續給與金

印刷局組合ニ於テ一年以上ノ勤續者ニ就テハ脫退給與金ノ方法ニ依ラズ勤續給與金ノ方法ニ依レルハ其特徵ト認ムベキコトタリ從テ其給與金額ハ他ノ組合ニ於ケル脫退給與金ノ如クニ已ニ拂込ミタル保險料以内ニ限ルコトナク此以上ニ昇ル場合アルナリ

解雇ノ場合ニ保險料ノ拂戻ヲナスニ就キ郵便貯金及通信官署組合ハ自己ノ便宜ニ依ル場合ニハ六箇月未滿ニ就テハ脫退金ノ給與ヲナサズ又專賣局組合ハ自己ノ意思ニ出ルト否トニ拘ラズ一年未滿ノ者ニハ脫退金ノ給與ヲナサルナリ然ルニ印刷局組合ニ於テハ一年未滿ト雖モ之ガ拂戻ヲ受クルナリ此點ニ就キ自己ノ意思ニ依ル脫退ト自己ノ意思ニ依ラザル脫退ト同一ノ取扱ヲナセルハ聊カ奇異ノ感ナキ能ハズ顧フニ印刷局ニ於テ現業員ノ勤續年數長キ者多ク一年以下ノ者ニ此特典ヲ與フルモ計算上差支ナキニ依テ然ルモノカ

右述ブル所ノ救済ハ四種ノ組合ニ共通ノモノタリ次ニ組合ニ依テ經營セル特

殊ノ救濟ヲ述ベム

天災其他不可抗力ニ依ル災害ノ救濟 是ハ罹災給與金或ハ災害給與金ノ名稱ヲ以テ印刷局組合郵便貯金及通信官署組合ニ行ハル、所ナリ此場合ハ何レモ給料二箇月分以内ヲ給與スルナリ

疾病ニ對スル保險 是レ郵便貯金及通信官署ニ於テノミ行ハル、モノニシテ滿一箇年以上勤續セル者ニシテ疾病ノ爲メニ業ヲ執ル能ハズ解雇セル者ニ與フル救濟ナリ是レ疾病保險ノ初步タルモノト云フベシ

産婦給與金 是レハ專賣局組合ニ於テ行ハル、モノニシテ一年以上勤續シ而シテ分娩前後就業スル能ハザル者ニ對シ分娩前後四週間ヲ限リ給與スルモノトス

第四章 制度ノ批評

余ハ已ニ章ヲ逐フテ官設共濟組合ノ制度ノ概要ヲ叙述セリ茲ニ是等制度ニ就キ其利害得失ヲ指摘シ改良ノ方針ヲ示サント欲ス

(1) 各種組合ヲ統一スルコト

鐵道組合先ヅ起テ共濟組合ノ先驅ヲナセシヨリ僅々三年間ニ三種ノ組合相踵
キテ組織セラレタリ今後陸海軍工場ヲ首トシ其他幾多ノ官業ニ於テ此組織ノ行
ハル、ハ蓋シ遠キニ非ルベシ然ルニ四種ノ組合ノ間ニ於テスラ施設多岐ニ分レ
殆ンド統一ヲ缺ケリ將來起ルベキ組合ニ於テハ此弊益々甚シキハ見易キノ道理
タリ均シク官業ノ勞働者ト雖モ業務ノ種類ノ異ナルニ從テ勞働ノ狀態ヲ異ニシ
或ハ災厄ノ率ニ就キ或ハ勤績ノ割合ニ就キ又勞働者ノ男女年齡ノ區別ニ就キ之
ヲ同一ニ律スベキニ非ラザルコトハ固ヨリ言フ俟タズ然リト雖モ同一ノ政府ガ
傭主ノ地位ニ立テ傭使セル勞働者ノ間ニ共濟組合ノ制度各々其趣ヲ異ニシ從テ
救濟ノ方法程度ニ就キ公平ヲ失フノ結果ヲ生ズルハ社會政策上稱揚スベキ事ニ
非ルベシ殊ニ何レノ組合ニ於テモ救濟ノ財源ハ當ニ組合員ノ負擔スル所タルノ
ミナラズ政府モ亦豫算ノ範圍ニ於テ一定ノ補助金ヲ支出スルヲ以テ通則トセル
以上ハ救濟ニ對スル不公平ノ處置ハ徒ラニ政府ヲシテ怨府タラシムルノミナラ
ズ政府ノ負擔ニ關シ財政整理ノ必要ヨリ云フモ統一セル方針ニ依テ組合ヲ經營
スルコトハ實ニ緊急ノ事タリト云ハザルヲ得ズ

是等ノ理由ニ依リ余ハ各種ノ組合ヲ總合シ官業勞働者ニ關スル一大組合ヲ組織スルノ議ヲ提出セント欲ス若シ夫レ業務ノ種類ニ依リ特別ノ施設ヲ要スルモノニ在テハ此組合ノ内部ニ於テ所管官署ノ特別經營ヲ許スモ可ナリ兎ニ角組合ハ一トシ官業勞働者ノ全部ヲ網羅シ事業ノ統一ヲ圖ルコトハ余ノ主張ノ眼目トスル所ナリ然レドモ此事タル容易ニ行ハル可ラズトセバ政府ハ宜シク法律ニ依リ救濟組合ノ準則ヲ制定シ各組合ヲシテ其大體ノ計畫ニ於テ統一ヲ保タシムルコトヲ務ムベシ

(2) 保險ノ種類ヲ擴張スルコト

現行ノ制度ニ依レバ各種ノ組合ニ於テ經營セラル、所ノ保險事業ハ災厄死亡老廢及解雇ニ對スルモノ其主タルモノタリ就中老廢保險ハ唯鐵道組合ニ於テ行ハル、コト先キニ述べタル所ノ如シ余ハ先ヅ鐵道以外ノ勞働者ニ對シテ老廢保險ヲ實行スルノ希望ヲ發表セント欲ス

疾病保險ハ勞働保險中重要ナル地位ヲ占ムルモノナルコト歐洲ノ學理モ實例モ其揆ヲ一ニセルニ拘ラズ我國ニ於テハ唯印刷局組合ニ於テノミ狹隘ナル範圍

ニ於テ不完全ナル方法ニ依テ行ハル、ニ過ギズ是レ實ニ我國勞働保險ノ歴史ニ於テ輕々ニ看過ス可ラザルコトタリ

災厄保險ニ就テハ救濟ニ必要ナル支出ハ政府當然ノ義務ナルヲ以テ他種ノ保險トハ全ク其性質ヲ異ニセルヲ以テ之ヲ組合ノ事業ヨリ分離スベシノ議ヲ立ル者アランモ余ノ見ル所ニ依レバ此議ノ前提タル災厄保險ノ特別ノ性質ハ已ニ官設人夫扶助令死傷手當規則其他ノ法令ニ於テ認メラレタルコトナルモ此救濟ヲ實行スルニ當リ之ヲ組合ノ手ヨリ離レシムルノ必要ハナシ唯組合ノ會計ニ就キ之ヲ以テ特別計算トナスヲ以テ足レリトセン顧フニ各種組合現在ノ狀況ヲ按ズルニ災厄ノ救濟ニ要スル費用ハ凡テ政府補助金中ヨリ支出スルコト、セリ災厄率ノ最モ多キ鐵道組合ニ於テ百分ノ一ノ資金ヲ以テ災厄ノ救濟ニ充當シ而シテ補助金ノ合計ハ百分ノ二ナリ其他ノ組合ニ於テモ悉ク補助金ハ百分ノ一以上ナリトセバ災厄ノ救濟ハ全ク政府ノ支出ニ係ルモノト認ムルコトヲ得ベシ然リト雖モ災厄ノ統計ハ各種ノ業務ニ就キ甚シキ不完全ナルモノタリ已ニ鐵道組合ニ於テモ此原因ノ爲メニ災厄ニ對スル支出ハ著シク豫算ヲ超過シ從テ會計ノ基礎

ヲ搖カスニ至リタルノ事實アリトセバ將來ニ於テモ亦鐵道組合ハ云マデモナク
其他ノ組合ニ於テモ百分ノ一ノ補助金ハ果シテ災厄ノ救濟ニ十分ナリヤ否ヤ或
ハ專賣局ノ如キ政府補助金ノ合計ハ百分ノ一・三ニ止マル場合ニハ實際ノ支出ハ
豫算ヲ超過スルコト鐵道組合ノ覆轍ヲ履ムコトナキヲ保セズ其他ノ組合ニ於テ
モ亦同一ノ結果ヲ生ズル場合ナシト云フ可ラズ是ノ如キ場合ニ於テ組合ノ局ニ
當ル者ハ必ラズヤ政府補助金ニ關スル一定ノ限度ニ制セラレ終ニ組合員ノ負擔
ニ係ル保險料ノ收入ヲ以テ之ヲ填補スルニ至ルベシ此處置タル災厄保險ノ性質
ヲ沒却シ組合員ノ利益ヲ犠牲ニ供スルモノタリ社會政策上寬假スベキニ非ラズ
此弊害ヲ豫防センニハ各組合ニ於テ災厄保險ヲ以テ特別計算トナシ政府ノ補助
金中ヨリ一定ノ額ヲ割キテ特別ノ資金ヲ設ケ而シテ尙ホ不足ヲ生ズルトキハ更
ニ政府ノ補助ヲ求ムルコト、スベシ要スルニ政府ハ災厄ノ救濟ニ對シテ最後ノ
保障ヲ與フルモノトシ累ヲ保險料ノ收入ニ及ボサルコト、スルハ必要ノ措置
タリ

(3) 保險ノ計算ニ賃銀等級ヲ設クルコト

保險料ノ割出ニ就キ專賣局以外ノ組合ガ均一定率ニ依ルハ不當ナリ須ラク等
級定率ノ方法ヲ採用スベシ顧フニ勞働者ノ支拂フ所ノ保險料ハ生計ノ剩餘ヨリ
支出セラル、ハ言フ俟タズ生計ノ剩餘ナルモノハ賃銀ノ高低ニ比例シテ増減ス
ルニ非ラズ寧ロ累進的關係ヲ有セルナリ然ルニ之ニ關シ均一定率ノ方法ヲ行ハ
ンカ賃銀ノ低キ者ハ其ノ高キ者ニ比シ過重ノ負擔ヲナスヲ免レザルベシ財政上
租税ノ理論ニ於テ比例税ト累進税トノ優劣ハ以テ茲ニ援引スルコトヲ得ン然レ
バ負擔ノ公平ヲ保ツ爲ニハ累進的ニ保險料ノ割出ヲナサル可ラズ然レドモ此
事タル保險ノ計算ニ於テ至大ノ困難ノ之ニ伴フ憂アルガ故ニ等級定率ノ方法ニ
依ツテ各等級ニ於ケル保險料ヲ定ムルニ就キ累進ノ主義ヲ加フルヲ以テ満足セ
ザル可ラズ加之ナラズ均一率ヲ採用セル結果トシテ賃銀額ニ僅少ノ變動ヲ生ズ
ルモ直チニ保險料ノ増減ヲナサルヲ得ズ事務執行ノ上ニ於テ手續ハ煩雜ニ流
レ之ニ要スル費用モ少ナキニ非ルベシ今之ニ代フルニ等級定率ノ方法ヲ以テセ
バ或程度ニ於テ此弊害ヲ除去スルコトヲ得ベシ

是等ノ理由ニ依リ余ハ等級定率ノ必要ヲ主張スル者ナリ獨逸ノ勞働保險法中

殊ニ癈疾保險ニ於テ此方法ヲ採用セルハ以テ參考トスルニ足ラン

(4)救濟金ノ支拂ニ年金ノ方法ヲ採用スルコト

災厄老癈ノ爲メニ永久勞働力ヲ喪失若シクハ減少シタル者ニ對スル救濟金ノ支拂ハ一時金ノ方法ニ依ルベキカ或ハ年金ノ方法ニ依ルベキカノ問題ハ獨逸ニ於テ勞働保險法制定ノ當時ニハ頗ル議論アリタルコトナリシモ近時學者ノ說ハ年金說ニ傾キ實例モ亦之ニ則ルモノ多キヲ加フルニ至レリ然ルニ我國官設共濟組合ニ於テ凡テ一時金制トナシ年金制ヲ排シタルコト先キニ述ベタル所ノ如シ是レ余輩ノ意ヲ得ザルモノタリ

年金制ハ一時金制ニ比シ計算ノ複雑ナルハ言ヲ俟タズ加フルニ年金制ニ依テ年金ノ受領者ヲシテ安固ナル生計ヲ營マシメンニハ元資ノ積立額ニ就キ一時金制ニ依ル場合ニ於ケル場合ニ比シ勢ヒ多額ニ上ラザルヲ得ズ從テ之ガ財源トシテ保險料ノ増加ヲナスカ然ラザレバ補助金ノ増加ヲナスノ必要ヲ生ズルナルベシ然レドモ勞働保險ニ依ル救濟ノ效果ヲ完カラシムルニハ年金制ハ遙ニ一時金制ノ右ニ出ルモノトセバ相當ナル財源ヲ求メテ之ヲ採用スルハ當然ノ處置ト云

ハザルヲ得ズ

(5) 勤續給與金ノ方法ヲ改ムルコト

余ハ鐵道以外ノ三種組合ノ規則ヲ通讀シ救濟ノ方法ニ就キ勤續給與金ナル一種特別ノ救濟アルコトヲ見テ奇異ノ感ヲ起セリ蓋シ各國共濟組合ノ制度ニ於テ是ノ如キ救濟ハ未ダ見ザル所ナレバナリ然リト雖モ我國官設共濟組合ハ其財源トシテ保險料ト補助金ノ二種アリ保險料ノ收入ニ依テ與フル所ノ救濟ハ即チ保險ノ性質ヲ帶ビタルモノナリ補助金ニ依テ與フル所ノ救濟ハ保險ノ性質ヨリモ寧ロ政府ノ恩惠ニ出ルモノト云ハザルヲ得ズ

今勤續給與金ノ性質ヲ按ズルニ全ク賞與ノ意義ヲ以テ解釋セザル可ラズ組合員ガ保險料ヲ支拂テ勤續ヲ保險スルコトハ無意義ノ事タリ歐洲ノ共濟組合ニ於テハ單ニ保險料ヲ以テ財源トナスガ故ニ是ノ如キ保險ノ性質ヲ缺ケル救濟ヲ與フルノ理由ナキモ我國官設組合ニ於テハ政府ノ補助金ハ財源ノ一ニ數ヘラレ而シテ此財源ヨリシテ勤續給與金ノ支出ヲナスモノトセバ此制度ハ強チ組合ノ事業トシテ排斥スベキニ非ラザルベシ去レバ此制度ノ正當ナルヤ否ヤヲ明カニセ

ンニハ各組合ノ計算ノ基礎ニ遡リテ政府ノ補助金ハ果シテ其當然ノ義務タル災厄ノ救済ヲナシタル以上ニ勤續給與金ニ繰込ムベキ剩餘アリヤ否ヤノ問題ニ歸著セザルヲ得ズ今三種ノ組合ニ就キ之ニ關スル精確ナル數字ヲ得ル能ハザルモ何レノ組合ニ於テモ勤續給與金ハ死亡ニ對シ又解雇ニ對シ救済金ノ幾部ヲ占メタリ而シテ給與ノ條件トシテ郵便貯金及通信官署組合ハ勤續年限三年以上トシ專賣局組合ハ五年以上トシ是ノ如キ勤續者ハ其數割合ニ少キノ事實アリ但シ印刷局組合ニテハ一年以上ノ勤續ヲ條件トセルモ此勤續給與金中ニハ幾分ノ脱退給與金ヲ包含セルヲ以テ純然タル勤續給與金ノ性質ヲ缺ケリ

是等ノ理由ニ依リ現在ニ於テ勤續給與金ノ支出ハ多額ニ上ラザルモ將來ニ於テ勞働者ノ狀態變化シ雇傭關係ノ永續スル時期ニ至ラバ此支出ハ著シク増加スルナルベク從テ政府ノ補助金ノ財源ヲ以テシテハ到底缺陷ヲ生ジ終ニ保險料ノ收入ヲ割キテ之ヲ補充スルニ至ルコトナキヲ保セズ保險料ノ收入ニ依リテ勤續給與金ヲ支出スルコトハ背理ノ事タリ此點ニ就キ改良ヲ加フルハ必要ノ事タリ

(6) 保險ノ計算ニ於テ利率高キニ失スルコト

各組合トモ計算ノ基礎タル一定ノ利率ニ五歩ヲ採用シタルハ云フ迄モナク失當ノ事タリ營業保險ニ於テ是ノ如キ利率ニ依ルモノハ未ダ之ヲ見ザルナリ固ヨリ共濟組合ニ於テハ多額ノ補助金アリ又經營ノ費用ハ凡テ政府ノ支出ニ係リ加之フルニ毫モ純益ヲ生ゼシムベキモノニ非ラザルヲ以テ利率ノ計算ニ就キ強チ營業保險ト同一ナランコトヲ望ムニハ非ラズ此利率ノ高キホド被保險人ノ利益多カルベキ譯ナレバ社會政策上寧ロ之ニ左擔スベキモノタリ然レドモ五歩ノ利率ハ現在ハ兎ニ角近キ將來ノ金融市場ニ於テ維持セラるベキニ非ラズ而シテ保險ノ計算ハ長期ニ渉ルモノナルガ故ニ計算ノ基礎ヲ五歩ノ利率ニ採ルハ危險ノ虞アルヲ免ガレザルベシ

是等共濟組合ノ制度ニ就テハ尙ホ細目ニ渉ルトキハ批評スベキ事實少シトセズ改良ノ餘地ハ綽々然タルモノアリ余ハ茲ニ其重要ナルモノニ就キ卑見ノ一斑ヲ述ベタルノミ